平成１９年度
決算の状況

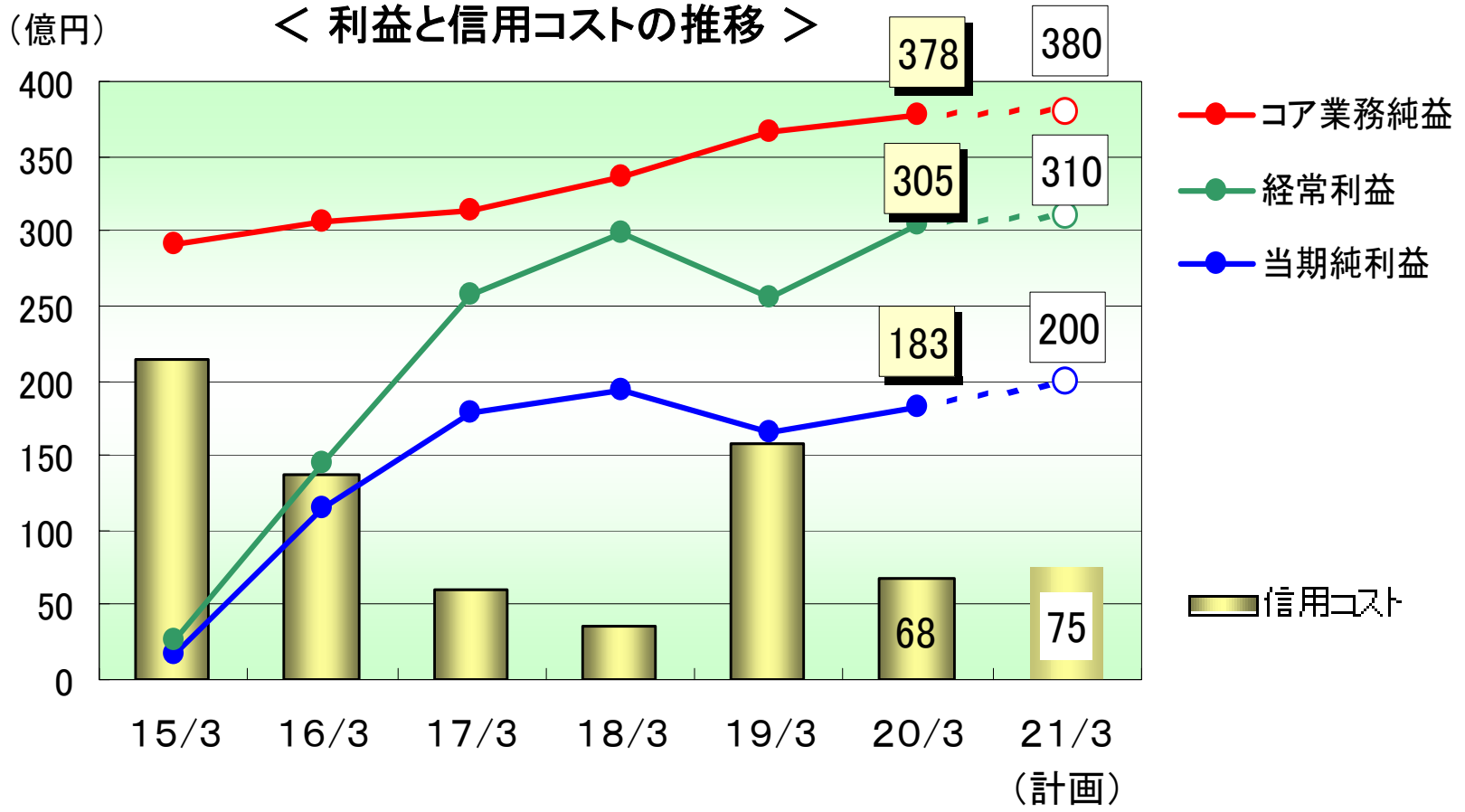
～ 海運・造船業は活況が続いております ～

損益の状況

伊予銀行

- **コア業務純益は6年連続で過去最高益を更新** しました
- **経常利益は初めて300億円を突破** しました

＜ 利益と信用コストの推移 ＞



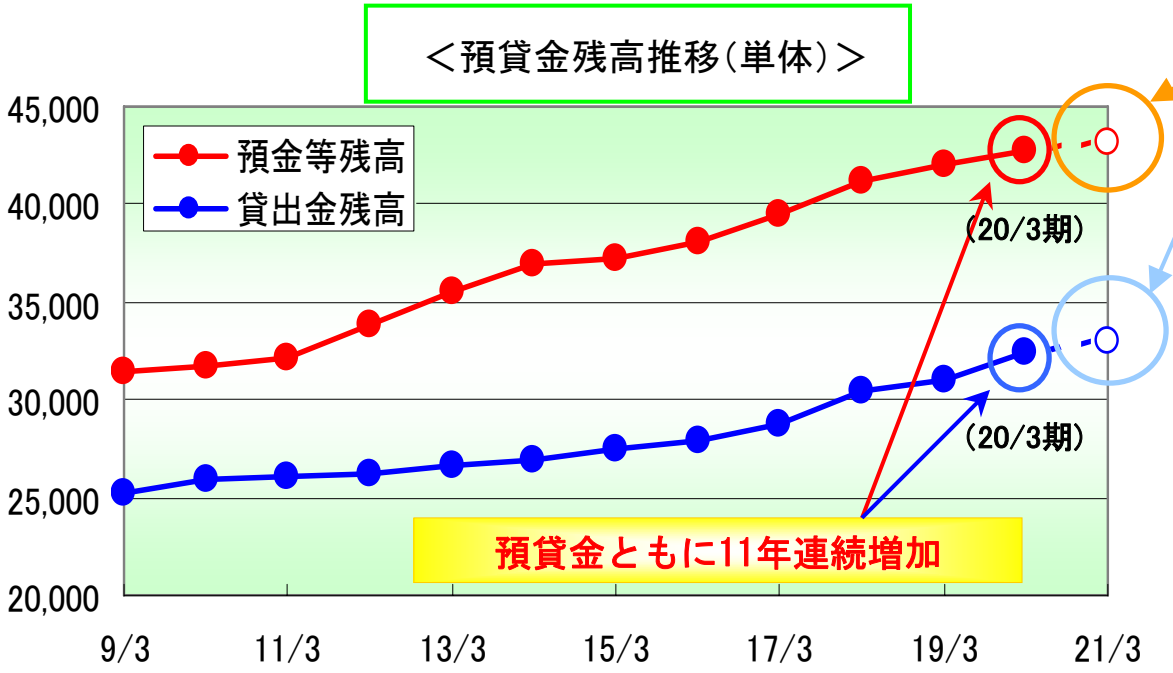
預金・貸出金残高の状況

伊予銀行

- 預金･貸出金の残高はともに **11年連続の増加** となりました
- 引き続き**12年連続の残高増加** を目指します

預貸金残高推移（単体）　　（単位；億円）

	15／3	16／3	17／3	18／3	19／3	20／3	前年度比	増加率	21／3	増加率
預金等残高	37,256	38,066	39,545	41,154	41,984	42,675	＋ 691	＋ 1.6%	43,400	＋ 1.7%
うち個人預金	25,744	25,980	26,532	26,668	27,581	28,518	＋ 937	＋ 3.4%	29,000	＋ 1.7%
貸出金残高	27,488	27,896	28,782	30,421	31,078	32,375	＋ 1,297	＋ 4.2%	33,200	＋ 2.5%
うち個人融資	6,449	6,937	7,300	7,771	8,130	8,482	＋ 352	＋ 4.3%	9,000	＋ 6.1%



12年連続増加を目指します

預金等
691億円増加

預金、貸出金とも
残高四国NO. 1

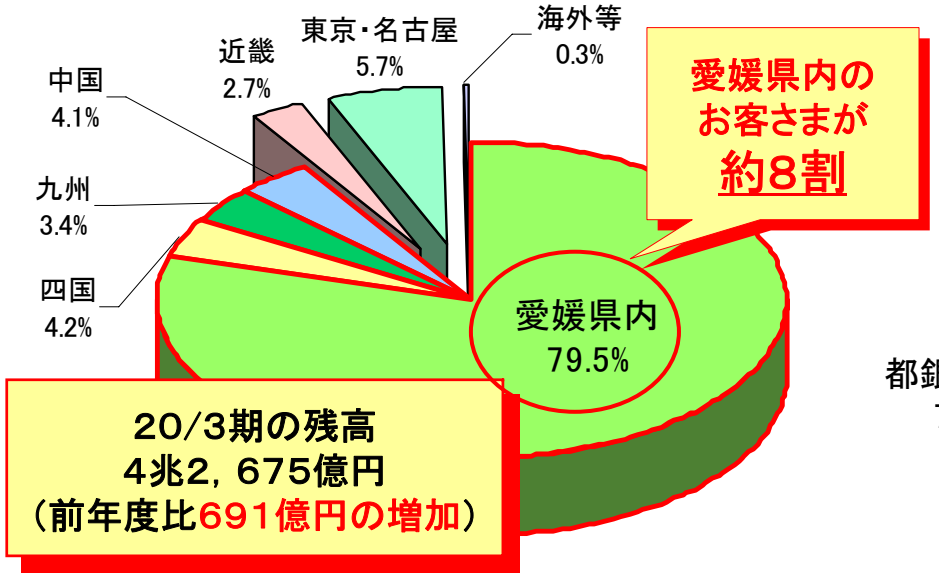
貸出金
1，297億円増加

預金等の状況

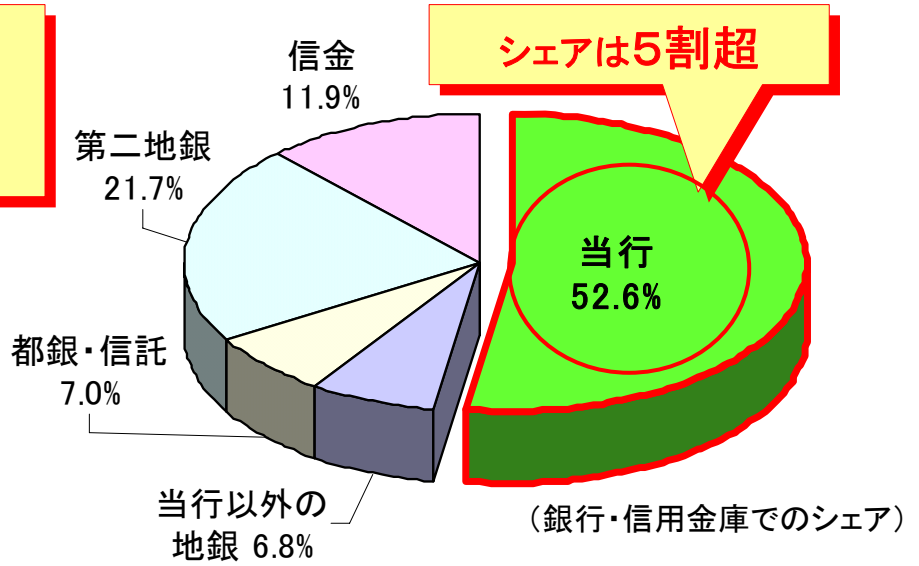
伊予銀行

- 20/3期の預金等残高は、4兆2，675億円（前年度比＋691億円）となりました
  - 愛媛県内のお客さまの預金が約8割 を占めております
  - 愛媛県内のシェアは5割 を超えております

＜預金等残高 地域別構成比＞



＜預金残高　愛媛県内シェア（20/3末）＞



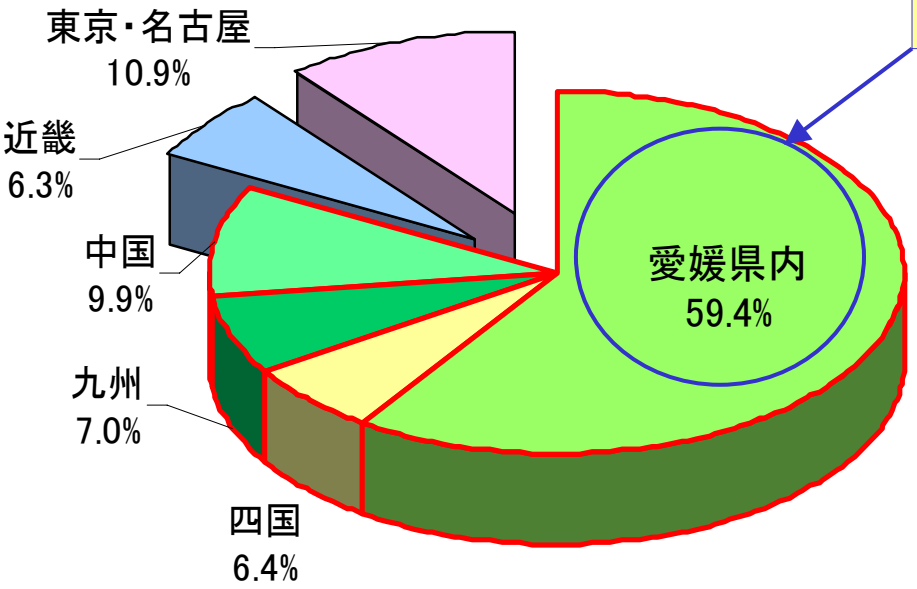
預金は皆さまからいただく「ご信頼の証」と考えております
引き続きご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます

貸出金の状況

伊予銀行

- 20/3期の貸出金残高は、3兆2，375億円（前年度比＋1，297億円）となりました
  - 愛媛県を中心に瀬戸内圏域のお客さまに広くご利用いただいております
    （約6割が愛媛県内、8割超が瀬戸内圏域 のお客さま）

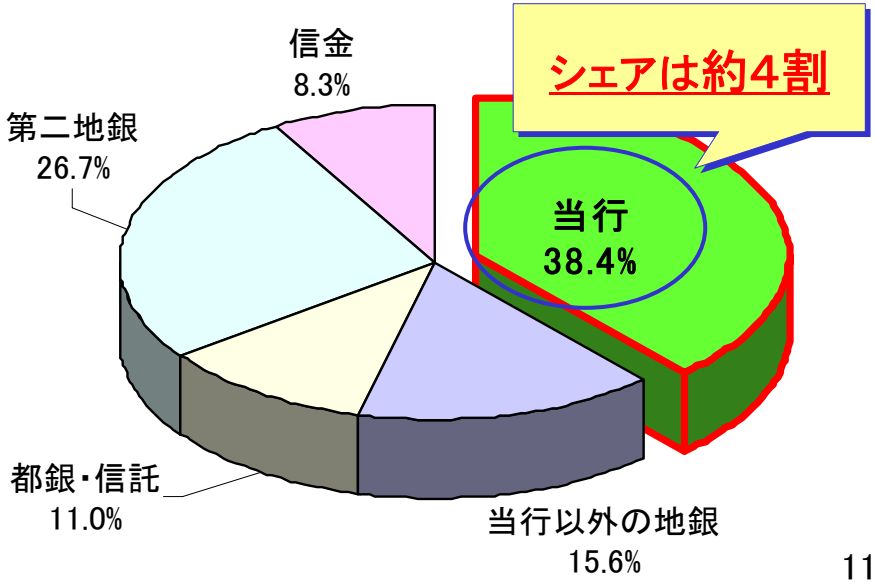
＜貸出金残高 地域別構成比＞



瀬戸内圏域の構成比は8割超
愛媛県内の構成比は約6割

20年3月の残高
3兆2，375億円
（前年比1，297億円の増加）

＜貸出金　愛媛県内シェア（20/3末＞



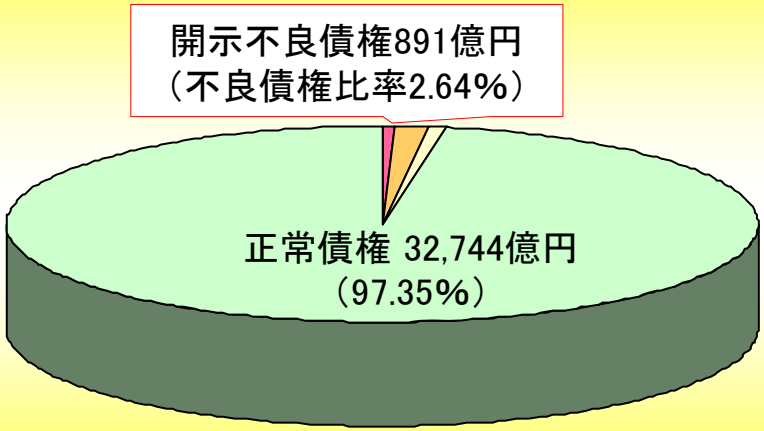
シェアは約4割

開示不良債権の状況

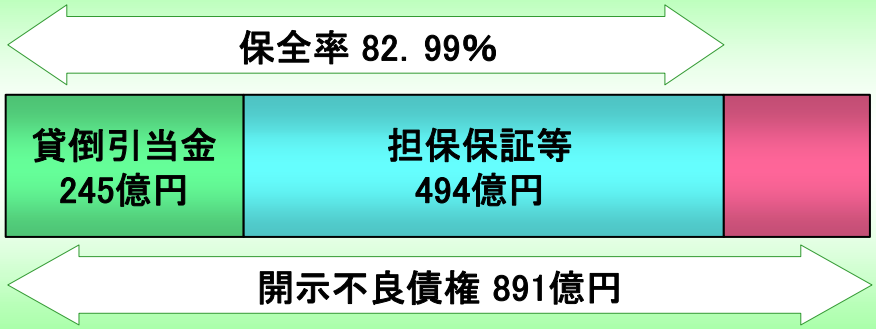
伊予銀行

- 地方銀行として地域再生への取組みを継続しながら、不良債権の縮減を目指します
- 健全性の目安となる**開示不良債権比率は、2.64%** と引き続き低い水準を維持しております
  （地銀平均3．91%）

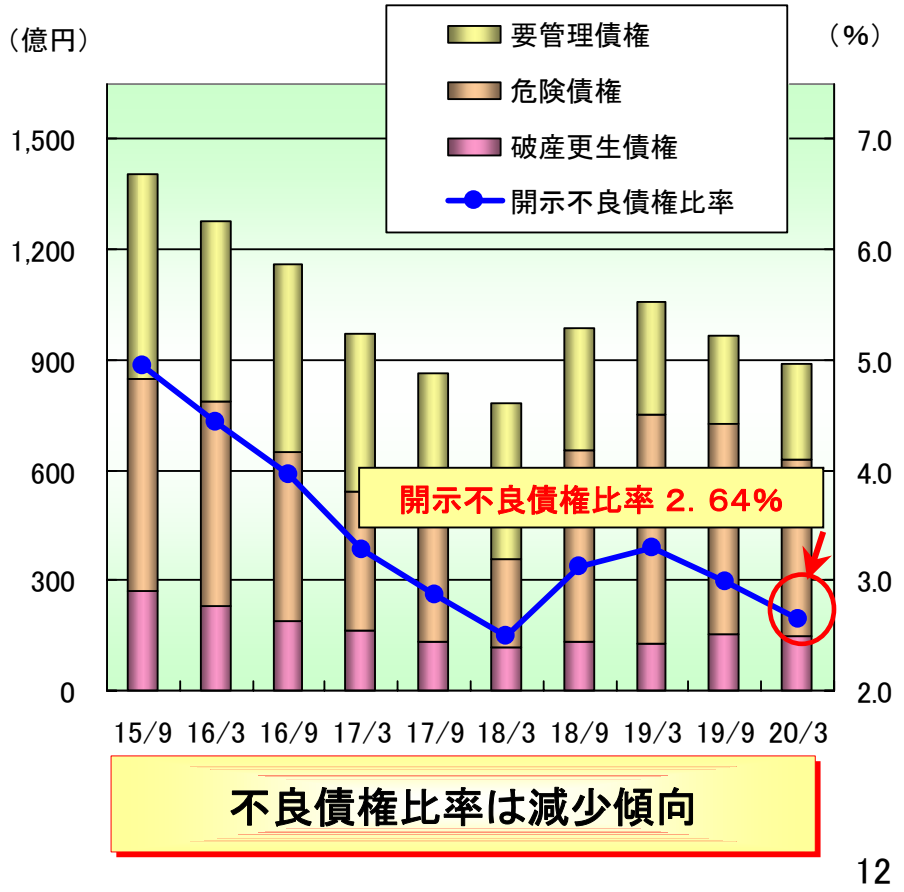
＜金融再生法開示不良債権の状況＞



＜開示不良債権に対する保全率＞



＜開示不良債権額･比率推移＞



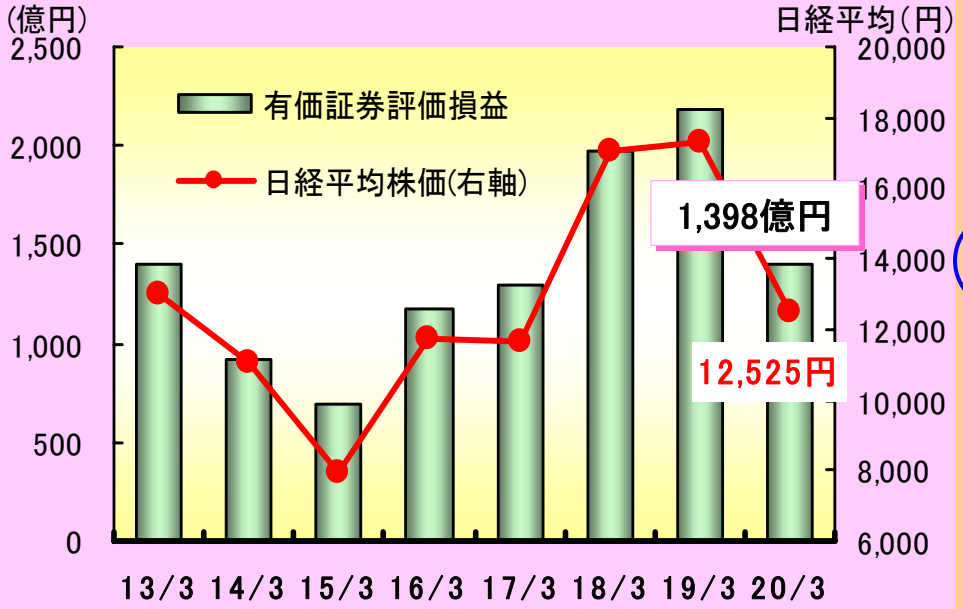
伊予銀行

有価証券評価損益および自己資本比率の状況

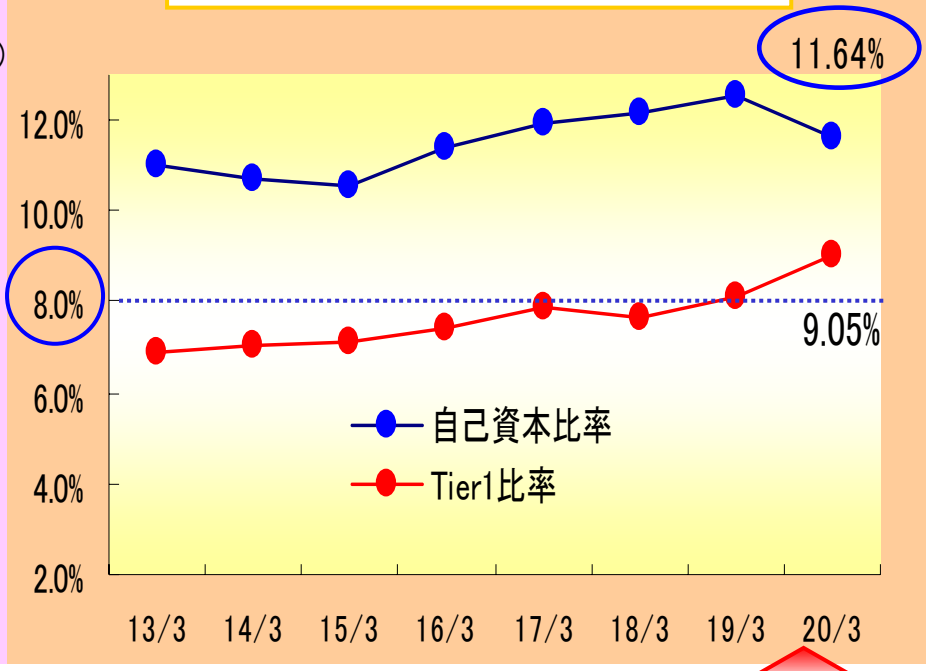
高い健全性

- 有価証券評価益は1,398億円と地銀第3位 の水準です
- 連結自己資本比率は、11.64%と高水準を維持 しております
  - 中四国の地銀で初めて承認を受けた基礎的内部格付手法により、算出しております

＜有価証券評価益(単体)の推移＞



＜連結自己資本比率の推移＞



20/3期より基礎的内部格付手法で算出